

令和元年度第4回外部評価モデル小委員会議事概要

I. 日 時：令和元年11月13日（水）10：00～12：00

II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、片岡委員、佐渡友委員、酒井委員
事務局：井端事務局長、中村

IV. 検討事項

大原主査が議長となり、議事次第に沿って、主に対話集会における報告内容の確認について以下の通り検討した。

1. 思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想

事務局長から第3回委員会の構想案を見直し、改めて「思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想案」として対話集会に報告することについて、以下のような報告・説明が行われ、確認した。

- ① モデル構想は、成績評価モデルと誤解を招かないよう、学生が卒業までに考える力などを身につける訓練としてのモデルであることを強調する。
- ② 知識獲得型の点検・評価は必要であるが、反面、本質を捉える学修が後退してきていることから、思考力等の到達度を訓練する仕組みとして、クラウド上でビデオ試問を行う点検・助言の仕組みを考えた
- ③ ビデオ試問は、映像、写真、アニメーション、図・表などを用いたビデオコンテンツをクラウドで視聴し、回答をクラウドに記述する。点検・評価は、第1段階としてビデオコンテンツを作成した外部者を含む3人程度で行い、その結果を踏まえて、第2段階として大学担当教員が総合的に点検・評価を行い、学生に助言をフィードバックする。
- ④ ビデオ試問を受ける学生の対象は、PBL（プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング）科目の受講者とした。
- ⑤ 点検・評価・助言の能力要素として、別紙の通り「標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック参照例」を作成し、能力要素のレーダチャート化、助言のフィードバックを通じて、学びの好循環が身に付くようにする。なお、学修行動に求められる行動特性や知識の量や正確性を判断する能力要素は除外した。
- ⑥ 本モデルの適用対象は、美術・デザイン系など作品自体の独創性・芸術性・製作技術を重視する分野、知識・技能の量及び正確性を中心とした実技・実演・実習の分野、資格取得の分野は対象外とした。
- ⑦ 点検・評価コンテンツの収集は、「外部点検・評価・助言検討会議」で選定した適格者にビデオ諮問の作成を依頼し、提供されたコンテンツについて点検・評価基準との整合性を確認した上で、クラウドに蓄積する。なお、コンテンツ作成は大学相互の協働作業とするため無償とした。
- ⑧ 思考力等が標準レベルに達しない学生の対応としては、学内での e ラーニングによる支援体制の仕組みが別途必要となる。
- ⑨ 将来システムの継続性、有効性が見通せる段階になれば、卒業年時に思考力等の到達度を質保証するエビデンスとして活用することも可能になる。
- ⑩ 学修成果の質保証システムとして有効性を検証するため、パイロット的な試行プログラムを策定し、本協会で文系・理系分野の一部で試行・検証する必要がある。

2. ビデオ試問のイメージ映像

角田委員から10月の小委員会で指摘された点を踏まえて、機械工学分野におけるビデオ諮問の試作2問が提示され、対話集会に報告することを確認した。

3. 点検項目等のルーブリック化について

事務局から、前回提出した「点検項目等のルーブリック化（メモ）」を踏まえて、能力要素、点検・評価の観点、点検・評価の基準を一覧表示した案について説明が行われた後、検討を行い修正し、対話集会で意見をうかがうことにした。確認した主な点は、以下の通りである。

- ① 点検・評価・助言を受ける学生の対象はPBL（プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング）科目の受講者とした。
- ② 能力要素として「論理的な思考力」、「批判的な思考力」、「科学的な考察力」、「問題発見・解決力」、「価値創造力」、「論旨明快に表現する力」とした。
- ③ PBLの行動特性は授業環境の整備状況に影響を受けることから、能力要素の対象外とした。
- ④ 知識の量や正確性の点検は大学や外部機関などの試験によるものとし、思考力等の点検・評価・助言を中心にした。
- ⑤ 「標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリックの参照例(検討中)」とし、今後数年かけて検討を行うことにした。

4. その他（次回開催日の決定）

今回は、令和2年2月17日（月）午前10時に開催することを決定した。